

5年	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のもとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
国語	① 話す・聞く力を高め、すすんで話したり聞いたりできる児童を育成する。  ② 語彙を増やし、文章を書く場面や対話の場面に生かせるようにする。  ③ 自分の考えや思いを言葉に表し、伝える相手のことを考えながら表現しようとする力を育成する。	① 具体的な話し方や聞き方、話し合いの進め方のモデルを示す。自分の考えをもつ時間を確保し、児童の主眼的な態度や取り組みを認め、よい点を褒め、全体に広げる。(達成率 80%)  ② 読書の時間を確保することや、意味調べ・季節の言葉集め等、語彙を増やす機会を作る。(達成率 80%)  ③ 自分の考えを記述する場面を設定し、教師の文章を参考にさせ、書くことに慣れさせる。意見文などの文章構成のパターンなどをつかませ、文末表現などを工夫するよう指導する。(達成率 70%)	①C：話し合いの機会を増やし、そのモデルを提示することで、少人数のグループ活動の際、自分の意見を話す児童は増えてきている。全体の場で発表できるように手立てを考えていく必要がある。  ②D：朝読書の時間の設定により、読書する機会は増えたものの、語彙が増えていることを認められる状態にはなっていない。  ③B：話型を示したり、友達の文章を参考にしたりすることで書くことに慣れ、自分の考えを文章で書ける児童が増えた。
社会	① 資料を的確に読み取り、活用できるようにする。  ② 資料同士、社会的事象同士を関連付けて、課題に対して自分の考えをもち、説明できるようにする。	①資料を正確に理解し、そこから問題解決に向けて必要な情報を取り出すことができるようにする。そのために、資料に線を引いたり、文章資料と関係する図表をつなげたりして、読み取り方について指導を行う。また、ペア活動やグループ活動を取り入れ、どんな情報を取り出せばいいのか、共有し、考えられるようにする。【達成率80%】  ②コンセプトマップなどの思考ツールを活用し、資料や社会的事象同士の関連を考えられるようにする。その上で、ペア活動やグループ活動を取り入れ、社会的事象の特色や関連を多角的に考察できるようにする。【達成率80%】	①A：文章資料や関係する図表に線を引いたり、読み取りについて指導を行ったりしてきたことで、解決に必要な情報を読み取れる児童が多くいた。  ②コンセプトマップなどの活用によって、事象間の関連を考えたり、因果関係を考えたりする児童が見られるようになった。
算数	・基礎的な計算能力を正しく身に付けていない児童が3～4割程度いる。特に3位数以上の和や差を求める筆算や、2位数以上の積や商を求める筆算の計算につまづきがある。	・反復練習を強化し、既習事項の理解を確実にする。授業の導入時にミニプリントを用いて計算練習を行う。また、朝学習時等でデジタルドリルを活用し、計算の仕方を復習する。 <b>【2学期中に達成率80%を目指す。】</b>	・B:自分の課題克服を意識できた児童については、様々な取り組みを通して計算能力の向上が見られた。自分の課題を藤橋チャレンジの結果などからより意識化させて、様々な反復練習に取り組みさせることが必

	<p>→基礎的な計算力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の基本的な公式や用語の忘れが多い。特に単位換算や面積の求め方にみられる。</li> <li>→基本的な公式や用語を正しく覚える。</li> <li>・文章から場面を想定し、意図に沿った立式に苦手感がある。そのため、根拠を基に説明することにも躊躇する児童が多い。</li> <li>→場面に合わせて数直線や図を基に考えて求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに既習事項を確認し、取り扱うことが可能な場面で確認をしていく。公式や用語を提示し、復習する。</li> <li>【3学期末までに達成率100%を目指す。】</li> <li>・大事な数字や言葉にアンダーラインを引き、どこを根拠に考えていけばよいのかを確認させる。また文章を図で表すことで理解を深め、根拠をもたせた立式をさせる。</li> <li>【2学期末までに達成率80%を目指す。】</li> </ul>	<p>要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B:用語や公式について、ただの暗記ではなく、なぜそのような表現になるのかを考えることができるようになった児童については、忘れていても考えを組み合わせる思い出すということがスムーズにできるようになった。今後とも自分の考えを図に表し少しずつ組み合わせる課題解決していくという授業の実践で、算数的思考力を高めていく必要がある。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実験の予想をさせる際に、根拠が説明できるようにする。</li> <li>② 実験から分かったこと、考察を自分の言葉で書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童の生活経験を基に、実験結果を予想させる。なぜそのような結果になるのか、理由や根拠を挙げさせる。予想を交流させることでモデルとして、いろいろな考え方や視点に気付けるようにする。【達成感80%】</li> <li>② 考察の文型を示し、参考にして書けるようにする。次第に支援を減らし、自力で書けるようにスモールステップの指導をする。【達成感80%】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① B:生活経験を基に予想や仮説を発想する児童が増えた。しかし、難しい事象やなじみのない事象では根拠のある予想がたてられていなかったため、事象をかみ砕いて説明してより発想しやすくする。</li> <li>② C:話型を提示することで、自分の力で意見を書く児童は増えてきている。結果をより吟味して考える手立てをしていく必要がある。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教材を通して、自分自身の行動を振り返り、よりよい生活につなげていこうとする、実践意欲と態度を育てる。</li> <li>② 教材を通して自分の考えを表現し、友達と交流することを通して、考えを広げたり深めたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童の体験したことや振り返りを具体例として話合いに生かし、学習したことをこれからの日常生活で生かせる場面がないか考えさせる。日常生活でも学習した内容について話し、友達のよさを見付けたり、考えを認め合ったりして、よりよい人間関係を築き、生活態度を改善していけるよう促す。</li> <li>② 自分の考えをもつ、書く、友達と交流する時間を十分に確保する。書くことが難しい児童には、教師が問い返したり、キーワードを示したりするなどして、表現する力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① C:学期ごとの振り返り等で活用できるように言葉掛けを増やしていく。</li> <li>② A:教材を通して自分の考えを表現することはよくできていた。</li> </ul>